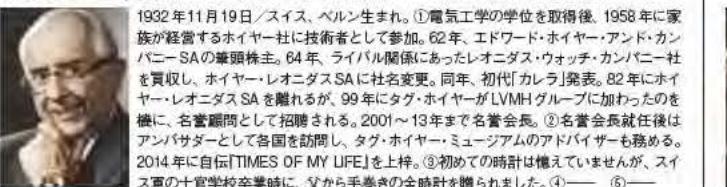
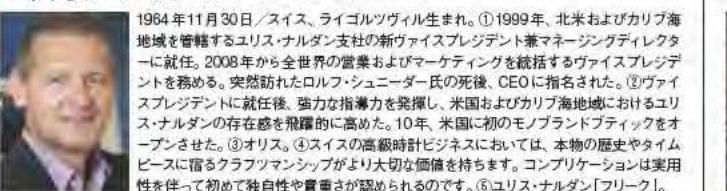


**Jack William Edouard HEUER**

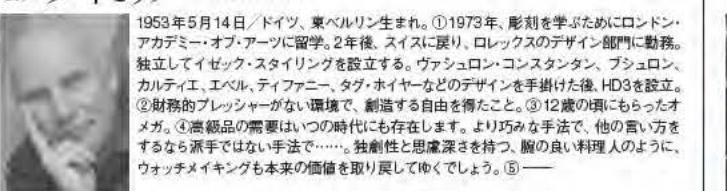
ジャック・ウィリアム・エドワード・ホイヤー タグ・ホイヤー／元名譽会長

**Patrik P. HOFFMANN**

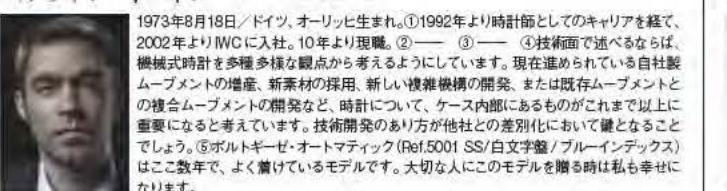
パトリック・P・ホフマン ユリス・ナルダン／CEO

**Jorg HYSEK**

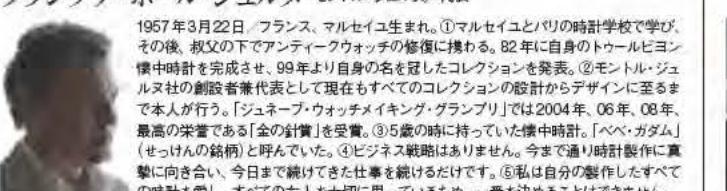
ヨルグ・イゼック HD3／共同創業者

**Stefan IHNNEN**

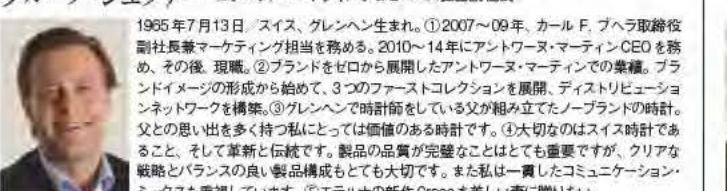
ステファン・イーネン IWC／開発設計責任者

**François-Paul JOURNE**

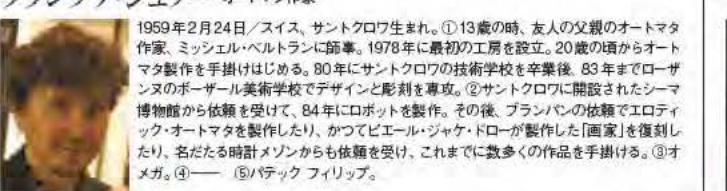
フランソワ・ポール・ジュルヌ モントル・ジュルヌ／代表

**Bruno JUFER**

ブルーノ・ジュファー エテルナ／マーケティング＆セールス担当副社長

**François JUNOD**

フランソワ・ジュノー オートマタ作家

**Caroline GRUOSI-SCHEUFELE**

キャロライン・グルオジ・ショイフレ ショーバル／共同社長



1961年12月14日／ドイツ、フルツハイム生まれ。①ジュネーブ インターナショナルスクールを卒業後、デザインおよび宝石学を学ぶ。その後、ショーバルに参加。85年に共同副社長、2001年、同社長に就任。②1985年、ハッピーダイヤモンドコレクションより、ジュエリーラインを発表。98年にはカンヌ国際映画祭のオフィシャルパートナーとなり、パルム・ドールのデザインを担当。2007年、レッドカーペットコレクションを発表。③ミッキーマウスウォッチ。④確かなクオリティと伝統を保ちながら、いかに独創性を打ち出すことができるか、特別な体験を提供できるかが成功の鍵となるでしょう。⑤――

**Yann GAMARD**

ヤン・ガマー グラスヒュッテ・オリジナル／マネージングディレクター



1957年、フランス生まれ。①ローランス・ビジネススクールにてMBA取得後、プロクター・アンド・ギャンブル(P&G)、カルティエ、スウォッチでファイナンスにおけるさまざまなプロジェクトを経て、1998年よりスウォッチグループの社員として就任。②ブランドの国際化、特にアジア圏でのブランド認知力の拡大、グラスヒュッテの工場建物の再建および近代化、レディスコレクションを中心としたコレクションの強化(レディスコレクション「バボニーナ」新製品)。③スウォッチ。④我々のビジョンは、常に最高のものをお届けすること、時計作りの伝統を守り尊重すること、革新と継続、精密さやダイズのデザインおよび技術力に正直でいること。⑤妻に私たちの新しいレディスコレクション「バボニーナ」のモデルを贈ります。⑥ティム。⑦クリストファー・コロンブス イクエーション オブ タイム。⑧13年、Sports Watch category「エル・ペリメロ・ストラトス、ストライクス・パウムガルトナー・モデル」のGPHG賞を受賞。⑨ティム。⑩クリストファー・コロンブス コレクションのようなハイエンデッド・カニスムウォッチに注目。⑪レディ・パイロット・ウォッチを妻に。

**Ricardo GUADALUPE**

リカルド・グアダルーペ ウブロ／CEO



1965年3月5日／スイス、ヌーシャ泰爾生まれ。①1988～94年、ブルガリのプロダクトマネージャーを務め、95～96年、ブランパンのブランドマネジャー、97年、同セレス＆マーケティングディレクターに就任。2001年に独立。04年よりウブロのマーケティングと製品のコンサルタントを務める。05年、マネージングディレクターに就任。12年から現職。②スイスプレジデントに就任後、強力な指導力を發揮し、米国およびカリブ海地域におけるユリス・ナルダンの存続感を躍進的に高めた。08年、米国に初のモーブランドブティックを開設した。③オリスト。④スイスの高級時計ビジネスにおいては、本物の歴史やタイムピースに宿るクラフツマンシップがより大切な価値を持ちます。コンプリケーションは実用性を伴って初めて独自性や貴重さが認められるのです。⑤ユリス・ナルダン「フリーク」。

**Paul GERBER**

ポール・ゲルバー ポール・ゲルバー／オーナー、テクニカルウォッチエンジニア、時計師



1950年1月31日／スイス、ベルン生まれ。①時計師として通常の訓練を受け、組み立て技術と時計製造技術を独学で習得した。②1989年製作の世界最小木製時計と2003年製作のルイ・エリエ・ビエによるエボシュームーブメントを搭載した世界でも最も複雑な腕時計を完成。97年に「レトログラード・セコンド」を製作。2001年、これを基にふたつのローターを搭載した「トロツイン」で特許取得。04年、「モデル33」製作。ガラスを70%で強化。12年に、「モデル41」を発表。③「CYMA Automatic」。④2014年の「ペールワールド」では、特許製のトリプルローターや日本の陶器工房とのコラボレーションで作られた「MICROMA」というスイス時計。⑤常に技術革新との連合に尽力していくこと。しかし、自らのルーツを忘れてはならない。これこそが成功への鍵だと考える。⑥「ピッグ・バン ウニコ オールブラック」を息子のティエゴに。

**Takahiro HAMAGUCHI**

濱口尚大 ウォシェ・マニュファクチャール・フルリエ／ムーブメント開発責任者



1977年6月15日／山口県下関市生まれ。①2008年8月からオーデマ・ピゲのムーブメント開発課長(ル・ブランシュ)。12年10月から現職のウォシェ・マニュファクチャール・フルリエのムーブメント開発部長(フルリエ)。②チームワークが大切なムーブメント開発において、チームを作り育成し、それを牽引できたことが誇りです。③高校1年生でニュージーランド語学研修旅行に行った時に買ったアンティークのギリス製機械式腕時計。④高級時計製造工場での工業化、自動化を進む今、ブランドと消費者の間で高級時計というものの定義が満出來てしまったように思われます。これからは、仕上げ、装飾などで本当に人の手が入った時計をどこまでミドルレンジの価格帯で提供できるかが、高級時計のキーポイントになるのではないかでしょうか。⑤将来、妻のイネスと一緒に制作する予定の時計。

**Eric GIROUD**

エリック・ジルー Through The Looking Glass／社長兼デザイナー



1964年11月11日／スイス、ラ・ショー・ド・フォン生まれ。①芸術、文化、音楽にかなり若い頃から傾倒し、熱狂的で広い世界観は年を追うごとに豊かになっていった。1990年に自身の建築スタジオを開設。98年には自身のデザイン・エージェンシーを設立。その後も芸術への意欲を持ってデザインを創作するために、さまざまな分野のアートを融合して続けている。②2012年、ジュネーブ・ウォッチメイキング・クラシック、男性時計・パリック部門、MB&F「Legacy Machine No.4」。13年、レッド・ドット・ド・アワード作品部門グラントプリ、スワロフスキー「Crystallium Watch」ほか多数。③19歳の時、スウォッチのベーシックブルーモデル。④――。⑤F.P.ジルヌ「クロノメーター・レジナス」。魔法のようないろんな魔主義的なアプローチの時計作り。今でも賄はしげに蓄えてくれています。

**Shinji HATTORI**

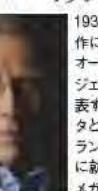
服部真二 セイコーホールディングス／代表取締役会長兼グループCEO、セイコーウオッチ／代表取締役社長



1953年1月1日／東京都墨田区生まれ。①1975年、慶應義塾大学経済学部卒業後、三養商事に入社。84年にセイコーの製造会社のひとつである精工舎入社。2003年、セイコーウオッチ代表取締役社長に就任。10年、セイコーホールディングス代表取締役社長に就任。②チームワークが大切なムーブメント開発において、チームを作り育成し、それを牽引できたことが誇りです。③高校1年生でニュージーランド語学研修旅行に行った時に買ったアンティークのギリス製機械式腕時計。④高級時計製造工場で工場化、自動化を進む今、ブランドと消費者の間で高級時計というものの定義が満出來てしまったように思われます。これからは、仕上げ、装飾などで本当に人の手が入った時計をどこまでミドルレンジの価格帯で提供できるかが、高級時計のキーポイントになるのではないかでしょうか。⑤将来、妻のイネスと一緒に制作する予定の時計。

**Pierre Michel GOLAY**

ピエール・ミッシェル・ゴレイ ウオッチランド／技術開発部門最高責任者



1935年生まれ。①1959～64年、パテック・フィリップでグランド・コンプリケーションの製作に携わる。その後、70年代オペラの世界に戻り、ジュネーブでプロ歌手として活躍。オーデマ・ピゲのグランド・コンプリケーションの開発に73年まで参加した後、ジェラード・ジエンタに出会い、グランド・コンプリケーションをジエラルド・ジエンタのブランド名で発表。11年、「スプリングドライブ・ミニッツリピーター」を発表。12年、世界初のGPSソーラーウオッチセイコー・アストロ」を発表。③父に譲ってもらった「グランドセイコ」。④創業者の言葉「常に時代の一步先を行く」という信念に基づき技術革新、市場のニーズを確実にこらえること、そしてその先にある「心躍る」時計を世界の人々に届けていくこと。⑤セイコースペースンであれば、「セイコーアストロン」女性には「クレードル」。

**Marc A. HAYEK**

マーク・A・ハイエック プレゲ、ブランパン、ジャケ・ドロー／社長兼CEO



1957年3月22日／フランス、マルセイユ生まれ。①マルセイユの時計学校で学び、その後、叔父の下でアンティークウォッチの修復に携わる。82年に自身のトゥールビヨン横時計を完成させ、99年より自身の名を冠したコレクションを発表。②シントル・ジュルヌの創設者兼代表として現在もすべてのコレクションの設計からデザインに至るまで本人が行う。③ジュネーブ・ウォッチメイキング・グランプリでは2004年、06年、08年、最高の栄誉である「金の針賞」を受賞。④5歳の時に持っていた懐中時計。「ベベ・ガダム」(せっけんの錠前)と呼んでいた。⑤ビジネス戦略はありません。今まで通り時計製作に真摯に向き合い、今日まで続けてきた仕事を続けるだけです。⑥私は自分の製作したすべての時計を愛し、すべての友人に大切に思っているため、一番を決めることはできません。

**Bruno GRANDE**

ブルーノ・グランデ ジャンリシャール／マネージングディレクター



1974年12月16日／イタリア生まれ。①1995年、IAAF(国際陸上競技連盟)を経て、2000年にスウォッチグループへ入社。05年、同グループ全ブランドのためのパートナー・シップおよびスポーツ・マーケティングを担当。②12年、ミケーレ・ソフィスティの運営するビンダグループに所属後、ソーウィンド・グループへ入社。13年にジャンリシャールCOOに就任。14年、同社のマネージングディレクターおよびハイペース部門責任者に就任。③スウォッチ。④眞のラグジュアリーとは、透明性があり、偽りがないことが大切だ。伝統とコストパフォーマンスの尊重も重要。ジャンリシャールのコンセプトである、フィンジ・オブ・ライフのように新しいものを見いだす勇気を持つ意味合いで、常に品質を向上させ、非常に高い水準を自らに課す。⑤製作中の女性によって開発された女性のための時計。

**Nayla HAYEK**

ナイラ・ハイエック ウォッチ グループ／会長、ハリー・ウィンストン／CEO



1965年7月13日／スイス、グレンヘン生まれ。①2007～09年、カール・F・ブヘラ取締役副社長兼マーケティング担当を務める。2010～14年にアントワース・マーティンCEOを務め、その後、現職。②ブランドをゼロから展開したアントワース・マーティンの業績、ブランドイメージの形成から始めて、3つのファーストコレクションを開拓。ディスリビューションネットワークを構築。③グレンヘンで時計を制作している父が組み立てたノーブランドの時計。父との思い出を多く持つ私にとって価値のある時計です。④大切なのはスイス時計であること、そして革新と伝統です。製品の品質が完璧なことはとても重要なことです、クリアな戦略とバランスの良い製品構成がとても大切です。また私は一度買ったミニチュア・ショーケースも重視しています。⑤エテルナの新作Graceを美しい妻に贈りたい。

**Robert GREUBEL**

ロバート・グリューベル グルーペル・フルセイ／時計師



1960年1月19日／フランス、アルザス地方生まれ。①代々続くローベル時計店に生まれ、父の傍らで7歳から時計の基礎を学ぶ。1987年よりIWCでグランドコンプリケーションの製作を担当。90年にはルノー・エ・パリの開発責任者となる。99年に独立。2001年、ステファン・フォルセイとともにコンプリケーション設立。04年に共同でローベル・フルセイを立ち上げる。②14年に「OP a Equation」をSIHHで発表。③フランス製の手巻き時計。④精度のあくなき追求と価値の保全。すべてが限定生産であり、コレクターたちが納得し、満足し、進化するコレクションのロイヤルコレクターであることがグローバル・フォルセイの発展を支えている。ローベル・グリューベル・フルセイ、そして本を同じくするチーム、理解者であるコレクターの時計に対する共通の思いでもあります。

**Ulrich W. HERZOG**

ウーリック・W・エルツィック オリス／会長兼CEO



1948年6月10日／スイス、バーゼル生まれ。①バーゼルで経済学を専攻。1978年、マーケティングマネージャーとしてオリスに入社。マネージングディレクターを経て、2001年に会長兼CEOに就任。05年に、各國の開発会社と新たに形成されたオリス・グループの会長に就任。②機械式ムーブメントを搭載し、かつ魅力的な価格の腕時計』という戦略を実行。これは他の製造業者が、機械式腕時計の価値を再認識する以前の1985年に明確化された。③父から贈られたオリス。④跨広告によって、非現実的な価格で時計を販売してきたブランドの中には、荒涼を見るところも出てくるでしょう。逆に足掛かりを得て成功した企業は、ムーブメントや素材の技術革新を行うでしょう。当面の間、高級時計は機械式を採用するでしょうが、オリスではこの点を楽観視しています。⑤

**Fawaz GRUOSI**

ファワズ・グルオジ ドゥ・グリソゴノ／創業者兼クリエイター



1952年8月8日／イタリア、フィレンツェ生まれ。①18歳でジュエリービジネスに関わり、その後、ロンドンで本格的にキャリアをスタート。1993年に自分自身のブランドを設立。2000年初の時計コレクション「ウノ」をバーゼルで発表。②05年に初の複雑時計ミニッツリピーター「オッキ」を発表。創業15周年の08年に「メカニコ6」と「オットアートレ」を発表。前者は09年ジンベエ時計コレクション「パブリック賞」を受賞。③16歳の時に手にした「Caetano」。イタリアで手に入れたもの。④時代に合わせてデザインを変えたり、コスト計算をして素材を変えたりすることは一切しない。本当に重要なことは常に革新的で創造力にあふれ、魂がある製品をつくること。この姿勢はデザインの面でもビジネスの面でも今後ますます重要なだろう。⑤他の名前でもある新作「アレグラ」。

**D-G Jean-Frédéric DUFOUR**

ジャン=フレデリック・デュフルール ゼニス／社長兼CEO



1967年12月3日／スイス、ジュネーブ生まれ。①ジュネーブ大学理工学部を卒業後、スウォッチ・グループ、ユリス・ナルダンなどの製造部門、営業部門、マーケティング部門、経営管理部門でキャリアを積み、2009年6月1日付でゼニスSAの社長兼CEOに就任。②ゼニスの歴史や素晴らしい点を加味した上で、現代性とエレガントを兼ね備えたゼニスコレクションを作り上げた。2011年「Best complicated watch category」「アカデミックリストファーム・クロノス、イクエーション オブ タイム」、13年、「Sports Watch category」「エル・ペリメロ・ストラトス、ストライクス・パウムガルトナー・モデル」のGPHG賞を受賞。③ティム。④クリストファー・コロンブス コレクションのようないわゆるカニスムウォッチに注目。⑤レディ・パイロット・ウォッチを妻に。

**Philippe DUFOUR**

フィリップ・デュフー／独立時計師



1948年6月